

## フレーム防除の斑点米カメムシ類に対する防除効果

### 1 背景・目的

県では、化学農薬の使用量削減をはじめとした環境保全型農業の取組を推進している。また、水稻では担い手への農地集積が進んでいることから、減農薬かつ省力的な防除法の確立が求められている。

そこで、ドローンを用いてほ場額縁部のみに薬剤を散布するフレーム防除について、斑点米カメムシ類に対する防除効果を検証する。

### 2 技術のポイント

- (1) フレーム防除を行った区では、薬剤を散布したほ場の額縁部だけでなく、散布していないほ場の中央部においても全面防除区と同等の防除効果が認められる(図1、2)。
- (2) フレーム防除を行った区と全面防除区の斑点米率は、一等米基準である0.1%以下を満たしている(表)。
- (3) 30a(30m×100m)ほ場の場合、農薬使用量を最大で約70%、農薬散布時間を約60%削減できる。

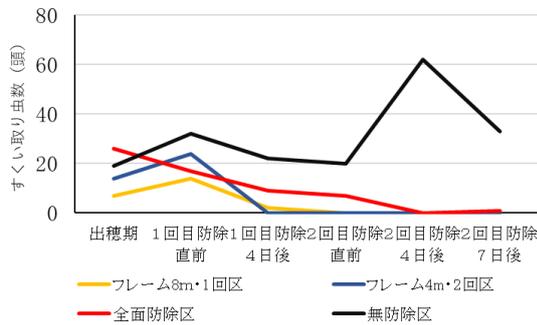


図1 斑点米カメムシ類捕獲数(額縁部)

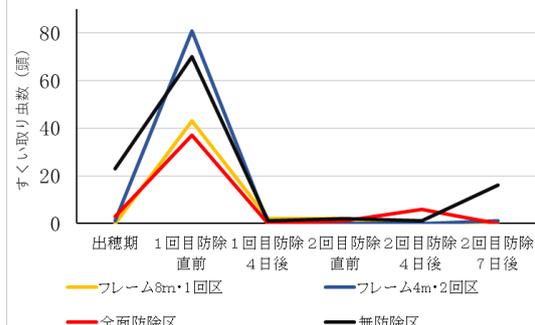


図2 斑点米カメムシ類捕獲数(中央部)

表 斑点米率

試験区	額縁部 (2m・6m)	境界部 (9m)	中央部 (15m)	平均斑点米率*
フレーム 8m 1回区	0.07	0.07	0.04	0.06
フレーム 4m 2回区	0.07	0.08	0.07	0.07
全面防除区	0.06	0.06	0.06	0.06
無防除区	0.24	0.32	0.27	0.26

図1、図2: 40回振りすくい取り調査、2反復合計値

表: ※平均斑点米率は面積比を用いた加重平均  
網掛部は0.1%以上を示す

品種: コシヒカリ  
 薬剤: ジノテフラン液剤 8倍 (800ml/10a)  
 散布日: 8/14 (出穂6日後)、8/21 (出穂13日後)  
 (フレーム8m・1回区は8/14のみ)  
 ドローン機種: XAG社 P30

### 3 成果の活用と留意点

- (1) 本成果は水稻の農薬使用量削減技術として活用できる。なお、本試験は30a(30m×100m)程度のほ場で、斑点米カメムシ類の優占種がアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメの条件で行っている。
- (2) 斑点米カメムシ類を誘引しないよう、本田および畦畔の雑草を適切に管理する。

問合せ先: 生産環境研究部 病害虫チーム TEL 076-257-6911  
 担当者: 谷本 悠輔・尾山 智洋・松田 絵里子